

■東北地方太平洋沖地震 福島第一原発活動隊

(4分4秒) -映像解説-

<映像の概要>

映像は、東京消防庁のハイパーレスキュー隊を中心とした東京都派遣隊が行った、ポンプ車による3号機への放水活動の様子です。原発の事故のあと、原子炉と核燃料の入ったプールを冷やし温度を下げて、事故の拡大を防ぐ目的で、放水が行われました。

<災害の概要>

- 平成23年(2011年)3月11日(金)、午後2時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が起きました。揺れの強さを示す「震度」はもっとも強かったところで7、地震の大きさを示す「マグニチュード」は9.0となりました。

これは、これまでに日本国内で観測された中で最大です。

この地震は、大津波や余震をともない、東北地方から関東地方にかけて、大規模で深刻な災害をもたらしました。

多くの人が犠牲になり、家や仕事を失い、また漁場や農地が打撃を受けました。

この地震により亡くなった人、行方が分からなくなった人は19,578人(消防庁公式サイト「被害報」より、平成23年11月30日現在)とされていますが、その9割以上は津波によるものです。

津波は北海道から沖縄まで全国の海岸で観測されました。特に岩手県、宮城県、福島県の沿岸部では多くの人が津波にのまれ、建物が流されるというたいへんな被害をもたらしました。

また、福島県双葉郡にある東京電力福島第一原子力発電所が、この地震および津波により大きな被害を受けました。

これにより重大な原子力事故が起き、放射性物質が大気中に放出されたため、被災地をはじめ、広い地域にわたって生活に影響をもたらしています。

さらに、関東・東北地方で地面の液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸を中心に大きな被害がありました。

いっぽうで防災や、被害を受けたあとの対策の大切さがあらためて見直されました。また、平成7年(1995年)の阪神大震災をきっかけに広まった「災害ボランティア」の活躍や、それを支援する動きが見られました。

<映像の流れ>

映像は以下の流れのとおりです。

見出し	内容
作戦会議の様子 (00:00 ~00:39 付近)	3月18日の午後11時、発電所の正門前でわずかなあかりを頼りに、作戦会議が開かれている様子を見ることができます。
敷地内での放水準備の様子 (00:40 ~03:57 付近)	放射線量をはかりながら、放水のための車両の誘導、手作業でホースをつなぐ作業などが深夜まで続く様子です。 無線や現場で指示を出す人の声、線量計の音から、緊迫した様子がよくわかります。
その後も続けられた放水 (03:58 ~04:04付近)	3月19日の午後2時6分ごろ、その後も続けられた放水の様子です。

撮影日時：平成23年（2011年）3月18日～3月19日

撮影場所：東京電力福島第一原子力発電所（福島県双葉郡）

撮影者：東京消防庁

提供：東京消防庁